

## 「舞鶴保育士会」「プロジェクト型保育推進事業～保育の質の向上～」合同研修会 大方美香先生 講演『エピソード記録の取り方、子どもの見かた』

7月27日（土）文化会館小ホールにて、「舞鶴保育士会」「プロジェクト型保育推進事業」共催の研修会を実施し、総勢160名の保育士の皆さんにご参加いただきました。講師に大阪総合保育大学大学院教授大方美香先生をお迎えし、「エピソード記録の取り方、子どもの見かた」についてお話をいただきました。日々の保育の中で子どもの姿をどうとらえればよいのか、子どもを見るためのポイントを楽しみワークを取り入れながら、ご指導していただきました。また、エピソード記録を書くための大事な要素、ドキュメンテーションで発信していく意味を明確に学ぶことが出来た貴重な研修となりました。

幼児教育の大切さを伝えるためには、今まで見えなかった保育を見えるようにすることが必要である。遊びを通して、各年齢で個々にさまざまな力が育っていることをエピソードとして保育の一場面からすくいあげる。乳幼児期に大切にしたい遊び、生活、学びを可視化する。



焦点化して見る力をつける  
 意識化して見る⇒言語化する⇒振り返る

### ＜保育の中で意識化して見る＞

- ◎着眼点が大事。見ようと思って見ないと見えない。
- ◎場面や1人の子ども等を選んで、切り取って見る。その場面や子どもの何を見るのか、視点を決める。
- ◎何をしているのか、何を楽しんでいるのか、じっと見る。その場面の裏側を読み取る。内面を読み取る。何を読み取るかで変わっていく。
- ◎記憶のワーク
  - ・子どもの人数が言えるか？
  - （人数は保育の前提、常に子どもの人数を

- 把握する）
  - ・1分間で子どもの名前が何人言えるか？
  - 思い出せなかった子に気づき、偏りをなくしていくことが大切。「明日一番に声をかけよう」など。
- ＜言語化する＞
  - ◎子どものつぶやきをセリフのように書く。
  - ◎作文ではなく本当にあったことを書く。その時の状況や環境も書くとよい。（「園庭の砂場で」等）
  - ◎エピソード記録はイベントではない。素敵なことだけを書くのではなく、気に

- なることも書いていく。
- ＜振り返る＞
  - ◎同じ場面でも見る視点（着眼点）で違ってくる。保育士間でカンファレンスすることで、見る視点の違いに気づくことが大切。
  - ◎今日の保育の振り返りを保育士同士で話す。（人と話すことで楽になる、思い出す）
  - ◎忙しい毎日、時間を区切って思い出したり、テーマを決めてしゃべったり、職員会の前に1分だけ言うなど、何が出来るかを考えることが大切。

子どもの世界に何が起きているか、遊びで何が育っているか、日々の保育の一コマを切り取って見る、エピソード記録として書くことで、子どもの育ちが見える

エピソード記録からの気づきを保育へつなげる

- ◎子どもの育ちには・・・
- ・保育士がチャンスの種をまかなければ育たない力…色水遊びを用意してみた。こうしたら、こうなった。
- ・子ども自らの育ち…思いがけずこんなことやっていた。おもしろい。
- この二つがある。どちらを書いてもよい。
- ◎同じ年齢でもこれだけ違うということに記録を通して気づく。それが大事。こんな素敵なことを子どもが気づいていたのに、先生が気づいてくれなかったとならないように。



- ◎出来なかった事が出来るようになった、変化や成長を書く。
- ◎どんな行動をしていたか、どんな言

- 葉を発したか、何が育ったか、内面的なことを読みとる。
- ◎「何がこの保育で育ったか」と見てみると見えてくる。
- 例：【水】1歳なら、み・ずの意味がどれぐらいわかっているのか。飲む水・プールの水・トイレの水…違いがわかっているから、プールの水も飲んでしまう。トイレの水に手をつこんでしまう。なかなか、1歳では水といってもこのようにわからない。大人がこれは飲む水、こっちはダーメと、教えてあげると分かるようになってくる…そのことを保護者に伝える。
- ◎ただ遊んでいるのではなく、各年齢で、個々に、いろいろな力が育っている、だから幼児教育は大切ということを保護者や小学校の先生に、発信していくことが大切。
- ◎自己決定する力を育てる

- ・小学校（児童期）は、いつトイレに行くか、いつ先生や友達に話すか、など自分で決めて自分で行動する。遊びや生活の中で身につける。
- ・やりたい！気持ちが育つから、我慢も育つ。
- ◎記録の内容をもとに、保育士間で話し合う
- （例）水が苦手→でも水には興味がありそうだ、では、どんな手助けをしなければよいか・・・
- （例）手遊びがうまくできなかった→2か月後、もう一度やってみるとできた、手が育った、お箸を持つチャンス育った力を保護者にも伝える。
- ◎子どもの姿や課題が見えてくる。今、何を育てないといけなにか考えるチャンス。
- ◎デイリーに追われ流れ作業にならないためにも記録を書くことは重要。

## 小学校教育研究会生活科部と共催 「保幼小連携」研修会 グループディスカッションや木下先生の講演を聞き、小学校・幼稚園・保育所（園）の先生方が連携をすすめるために交流を深めました。

昨年度、小学校教育研究会生活科部と保幼小連携プログラム策定事業の合同で「保幼小連携」についての研修会を実施しました。小学校の先生と保育所（園）の保育士が共に講演を聞くという機会も少なく、連携活動をすすめていく上で大変重要な研修でした。その研修が好評であったことから、8月19日（月）に小学校教育研究会生活科部が主催となり、保育所担当の子ども育成課、更に幼稚園を担当している教育委員会教育総務課も加わり、研修会を実施しました。

鳴門教育大学木下光二先生を講師としてお迎えし、指導・助言をいただきました。大変貴重な鳴門教育大学付属幼稚園の連携活動のビデオも見せていただき、より具体的にイメージすることができました。連携活動をすすめるには、小学校、幼稚園、保育所（園）が情報を共有する、連携のイメージを共有する等、お互いを知ることが重要であると改めて感じました。グループワークでは、情報や子どもに対する思い等を共有する上で、大変有意義な機会となりました。

### グループディスカッション

実際に連携活動ができるように校区ごとのグループに分かれて、「どんぐりなどの秋」を題材にした連携活動の計画を作成することにしました。残念ながら、時間もなく計画を書くところまではできませんでしたが、お互いの情報の共有、連携のイメージを共有することができました。

<グループ報告より>

◎年長児がお客さんにならないように一緒にできる活動を！みんなで何かをつくるような活動をしていきたい。  
例：秋さがしをして、みこしをつく



りかつぐ等

例：どんぐり見つけに出かけて、お互いがお店屋さんをする。チケットも交換する。

<木下先生より>

◎今回の研修では情報交換ができて有意義である。「お客さんにならない」という言葉が自然に出てきた。すごい。

「店を出し合う」という発言もあった。1、2年が店を出して幼児がお客さんであったのが変わってきている。

◎「遊んであげよう」「遊んでもらおう」ではなく、両方が夢中になれる活動が大事。

### 連携のポイント

してあげる、お世話するではない、一緒に遊ぶ・学ぶ

◎お世話してあげる、教えてあげるではなく、一緒に遊ぶ、学ぶ=互恵性

◎幼児にとってあこがれの学校で何かをやりたいと思うことが大事。できた、できなかったではない。

◎お互いが（先生同士）どれだけイメージを共有できるかが重要。

◎「時間がとれるかわからない」という意見もあるが、生活科の時間はある。生活科に幼児が入っていけばよい。



### 模擬授業「どんぐりの染め」

由良川小学校、八雲保育園の先生方に「どんぐり」を題材にした連携活動の計画を書いていただき、模擬授業をしていただきました。実際に活動を予定されていることもあり、大変完成度の高い計画と参加者が引き込まれるような模擬授業でした。

<木下先生コメントより>

◎わくわくするような子どもの姿が思い浮かぶような授業。

◎染物はすぐできるものではない…1年生も保育園で経験しているし、保育園の子どもは今、経験している。日頃の保育の積み重ねがあつてこそできる。保小とつ

ながってできるもの。

◎たかが「どんぐり」だが、この中にぶつ切れでなく、「染める」「食べる」活動につなげている。必然性へつなげている。

◎導入～まとめ

・模擬授業としては20分くらいのものだが、ずい分相談をしたはずである。活動のイメージが共有できている。

・引き込まれる話し方をしている。子どもは楽しいことは聞く。

・難しい言葉をあえて使っている。本物に触れる体験や知的好奇心を高める効果もある。

・何が達成できてよしとするか、評価観の

### 連携のポイント

活動のイメージの共有、評価観の共有

共有もできている。

◎ある先生から、連携活動は「ルールに乗せられているのとは違う。」との意見があった。「ルールがあれば脱線することなく着く。途中でルールを切っておくと脱線するが、どうしたらいいか子どもが考

える。」いろいろな方法があつてよい。失敗を繰り返して学ぶ。



### 木下先生の講演より

◎中野重人著『生活科のロマン』より…  
・生活科の特色は、教えることではなく、学ぶこと。教師中心ではなく、子ども中心であること。

・具体的な活動や体験を重視。  
◎連携の計画作成のポイント  
・既存の計画（今あるもので一緒に）

・活動後の話し合い、振り返り。

・互恵性のある活動。

<鳴門教育大学附属幼稚園の

連携活動より>

◎いかだプロジェクト

・自分たちで4000個のペットボトルを集める⇒昨日3個、今日8個…数えなさいと言わなくても数える。

・できあがったいかだをプールに浮かべて遊ぶ。普段入りたがらない子どもも入る。どっちが1年生かわからないほど夢中

になって遊んでいる。

・いかだをつくるのが目的ではなく、そこで何を学ぶかが大切。連携の質にかかわる。

◎並ばせる、紹介式をするなどよく見られるが、子どもに任せる。活動していく内に仲良くなっていくもの。

◎普段やっている活動に、1年生や幼稚園、保育所（園）の子どもが入るだけでよい。

◎鳴門の幼稚園が正解ということではなく、舞鶴オリジナルをつくってほしい。



## 「プロジェクト型保育」 東山保育園において北野幸子先生の指導による園見学・コース研修会を実施しました

8月22日（木）午前、東山保育園において神戸大学大学院准教授北野幸子先生に園見学と指導をしていただきました。同じコースで学ぶ、ルンビニ保育園、中保育所も参加し、園内の環境やドキュメンテーションについて、より具体的にアドバイスしていただき、見学園にとっても参加園にとっても有意義な園見学となりました。

### 東山保育園 見学

**どこで何をしてもよい、  
どの場所でどう遊ぶか、子どもが自由に選べるようになってるのが重要。  
保育士は…声かけ、問いかけ、教材準備を！**

#### <水あそび>

- ◎ペットボトルのふたで作ったきんぎょ、あみ、スポンジがよく工夫されており、子ども達がとても楽しそうにしていた。
- ◎2リットルの大きなペットボトルで遊ぶのも浮力・重さが体感できる。ペットボトルの穴のあけ方、あける場所を変えると全く違う水の出方が体験できる。
- ◎つかむ、すくう、かける、全身ひたるなどの一歳児らしい運動が見られた。
- ◎お友だちにかけた→かかったことに気づかないかもしれないので、まず禁止するよりも、気づくような言葉がけを（「お友達にかかったね、お友達冷たいって」など具体的に）行う。



#### <どろんこ・土あそび>

- ◎子どもがそのおもちゃを何に見立てているかにより、遊びが変わってくる。
- ◎保育士は水路にと思っていたのに「左官屋ごっこ」が始まったりする。保育士が用意した物を使って予想しなかった遊びをした時がチャンス！
- ◎ここはどろんこ遊びをしていい場所、いけない場所など遊ぶ範囲を決めていないのがよい。



#### <砂場>

- ◎高低差があるともっとおもしろい→子どもの遊びが発展する。（とい、2リットルのペットボトルの両端を切った物でも高低差がつけられる）
- ◎土が固い→どうすればいいか？・・・みんな考えてよう！保育士は様子を見て声かけを。固い砂を一生懸命掘ることもよい体験である。

#### <色水あそび>（乳児）

- ◎自分で色を選べるのがよい、色水の色もきれいな色であった。保育士は「～みたいなピンクだね」等の言葉がけを多くもつとよい。
- ◎じょうろや、スプーンなどまぜて遊ぶ物があるとよい。

**保育士は、  
子どもの発見、気づきを逃さないよう、アンテナをはり、  
子どもの思いをひろって発展させていくこと。子どもと子どもをつなげること。**

#### <乳児の保育について>

- ◎決まった時間、決まったメンバー、決まった流れ（生活習慣）で過ごすことが大切。食事の時は、座る場所、そばにつく保育士も固定されている方がよい。  
“安定・安心・ルーティン”
- ◎片づけ後、食事前など生活の区切りに絵本を見たり、手遊びをしたり、少し大きくなったら今日の活動を視覚的に振り返ってもよい。活動の終わり方も大事。
- ◎運動は、ただ走るだけより、少し動いて少し休むような動きを繰り返す運動がよい。
- ◎特に1歳児は、個人差に加えて、保育経験差（途中入所差）がある。入所後1～2ヶ月は、基本的信頼感をつくり居心地の良い場所になるようにする。
- ◎保育のなかで、**保育士は指示したりせ**

**ず、ゆったりと関わるよう心がけることが重要。**

#### <縦割り保育について>

- 4, 5歳児を合同にすることが多いようであるが、発達を細かく調べ研究していると、3, 4歳児の方が発達の共通点が多く、近いのではと思われる。5歳児はむしろ小学1年生と一緒に活動するのがよいのではないか。
- ◎4歳を過ぎてくると、「〇君がこんなことをしているよ」などの言葉がけが有効になってくる。**子どもと子どもをつなげようとするのが大事。幼児は、自分でなんとかしようとする力をつけることが大切。**
- <支援の必要な子ども>
- ◎支援の必要な子も同じ地域と一緒に育つことが大切で、他児に与える影響

も多く、優しいまなざしや思いやりにより、幼いうちから人権意識が高くなる。

#### <園外環境について>

- ◎オープンな環境の方が子ども達の発想が豊かになる。
- ◎**子どもの発見、気づきを逃さないよう、保育士はアンテナをはり、子どもの思いをひろって発展させていくこと。**



## プロジェクト型保育研修

8月22日(木)午後には、場所を「さるなあと2階会議室(ルンビニ保育園)」に移し、参加園(東山保育園、ルンビニ保育園、中保育所)のドキュメンテーションを先生を中心に全員で見ながら、直接先生とやりとりをする参加型の研修になり、各園より効果や課題、疑問など活発に意見が出されました。また、プロジェクト型保育をすすめていく上で具体的なお話もしていただき、次回につながる研修となりました。

## ドキュメンテーションを書いてみて…各園より

<よかった点、感想>

◎保護者にとって…園の様子を伝えることができた。園生活に興味をもってもらえる。写真があるので、わかりやすい、見てもらいやすい、説得力がある。

◎保育士にとって…保育の振り返りになる。

<課題>

◎保護者には写真はみてもらえるが、文章は読んでもらにくい。

◎保育活動の中で、つぶやき、写真を同時にとらえる難しさ(瞬間をのがす)がある。

◎担任により、書く領域に偏りが出てきてしまう。

◎視点がぼやけてしまう。



## 保育を振り返ることで、書く時の視点が定まる

…北野先生コメント

<より良いドキュメンテーションを書くために…>

◎保育の振り返りをする。振り返りをしないと、進歩はしない。繰り返していると、視点を定めるのはよくなる。(トレーニングする。)→スタッフで振り返ると、子どもの姿に気づけ、発達をとらえられる。(保育士間の話し合いが大事)

◎ドキュメンテーションは、年齢により、発達、視点が違うため3,4,5歳と年齢ごとに出すほうがよい。

・3歳…友達との関係

・4歳…時系列の記録

・5歳…五感を発揮し、よく知ったこと、感動したことを人に話したり表現する

等を視点におくとよい。

## 事例を見ながら…ドキュメンテーションの書き方

～こんな発見・気づきなどの「学び」やこんな力・育ちなどの「発達」を書くことが重要～



◎子どもの言葉は、ふきだしに。

◎一文につき一行半以上、書かない。

◎乳児などA4用紙に写真3枚、3～4文でも十分。

◎“こんな発見・気づきがあった”などの『学び』が、

すみっこにエッセンスとしてあること。

例) ・ワニになったり、バタ足をしたりして楽しめました

→動物をイメージし表現する力がついています

・シャボン玉をしました

→大きさや量の違いに気づく姿が見られました 等

◎整理して書くトレーニングを!

◎太い、大きいなど似ている言葉はまとめる。

◎まとめ方、書き方として…

・時間軸を中心に、時系列を横に

・コンテンツ内容ごとに、カテゴリごとに

・真ん中からひろげる(マトリックス)

◎単発にイベント的に出すより、つなげて出すことが大事。



## プロジェクト保育のすすめ方

～大人があたえるものでなく、子どもが主体となる活動～

◎保育者に子どもをみる力がないと、指示・命令が多くなる。

◎体育教室などで決まった運動を多くしている子ほどが運動能力が低かったりする。

↓

◎大人があたえるものでなく、子どもが主体となる活動が大切。

◎みんなで一斉に何かをする必要はない(年長になってから少しずつでよい)

◎1人の体験をみんなに伝える。つなげる。



## プロジェクトのはじまり

子どもの好奇心:なんだろう、おもしろそう、じっと関わりたい!

探究心:なんでだろう?どうしてだろう?もっと知りたい!

あこがれ:できるようにになりたい!～博士になりたい!

を、子どもの現実(あそび、生活の姿)から抽出する。

## トピックスの選定

子どもの姿+保育者の願いから

(教育的意図、育てほしい子ども像)

保育所保育指針との関係、5領域との関係から

遊びを起点とした遊びのプロセスから

## プロジェクトをすすめる

関心をもつ、問いをたてる

五感で感じる、親しむ、触れ合う、育てる、調べる

比べる、分類する、整理する、活動を深める、探求する

さらに調べる、よく知る

表現する、共有する

